

# 川崎医科大学附属病院 がんセンターNEWS

Vol.2 2010 新年号



撮影：がんセンター長 國尾 博司

- 年頭のご挨拶
- 乳腺甲状腺外科のご紹介
- 第25回 Case Conferenceレポート
- 第47回日本癌治療学会総会学術集会に参加して
- エビデンス・レポート

## インフォメーション

- がんセンター活動予定
- 緩和ケアフォーラムin岡山
- オープンカンファレンス





## 年頭のご挨拶

川崎医科大学附属病院がんセンター長 園尾 博司

新年おめでとうございます。本年も何卒よろしくお願ひ申し上げます。

さて、平成19年4月にがん対策基本法が制定され、がん診療の充実化が図られています。それを受けて当院では平成19年8月にがんセンターという組織を設置し、活動を行なっています。また、当院は平成20年2月に地域がん診療拠点病院に指定されています。当院がんセンターの活動は、各領域のがん診療に関わる医師、看護師、コメディカルの各職種代表が定期的に会合を開き、院内がん診療の円滑化を図るとともにがん診療の啓発・地域連携などを行っています。

主な活動としては、がん診療の管理(抗がん剤のプロトコールの審査・承認など)のほか、各種啓発活動(①ケースカンファレンス：院内で各領域のがん症例検討会、月1回、②Cancer Seminar：院内外の医師向け研修会、年2回、③Oncology Seminar：看護師・コメディカル向け研修会、年2回、④市民公開講座：一般市民向け講座、年2回、⑤緩和ケア研修会)を行なっております。また、地域に出向き地域医師会との交流会(年4回)を開催して地域連携を図っております。

本年もより良いがん診療を目指し、地域と一体化した活動を行なっていく所存でありますので、何卒よろしくお願ひ申し上げます。



## ● 乳腺甲状腺外科のご紹介

乳腺甲状腺外科 部長 園尾 博司

「心暖かい日本で最もよい診療」をモットーに私を含め12名の教室員で多くの乳癌および甲状腺・副甲状腺疾患の診療を行い、学生・研修医の教育、学会活動を行っています。

今回は、当科の診療活動のみを紹介します。お陰様で、当科の外来・入院患者さんの数は毎年増加し続けています。外来診療は大変忙しく、外来患者数は、年間延べ約2万人で一日60~100名です。通院による抗がん剤の点滴を受ける乳癌患者さんは年間約2500名で当院全体の半数を占めており、外来看護師や通院治療センターのスタッフに大変お世話になっております。

入院患者数は年間約670名で、他院再発例や治療困難例にも最善を尽くし、最後の砦の役割を果たすように努力しています。手術例数は年間、乳癌は250例を超え、甲状腺・副甲状腺は120例を超えており、いずれも岡山県で最も多い手術例数となっています。他

科の医師や看護師・薬剤師などのスタッフとともに、よいチーム医療の実践を目指しています。

今後は地域の信頼とともに他の医療機関とのより良い連携を目指し、教室員とともに全力を尽くしたいと思います。本年もどうかよろしくお願い致します。



## ● 第25回 Case Conferenceレポート

がんの診断・治療の現場においては、単一科あるいは医師のみでは解決できない問題が多数経験されます。当がんセンターではCase Conferenceを月1回開催し、診断科や職種を超え横断的に討論する場を提供しています。

### 症例：子宮癌肉腫(carcinosarcoma)の根治的切除後、膈・骨・皮膚転移をきたした症例

(産婦人科 石田 剛、中村 隆文)



肉眼型は特徴的で、隆起を主体とした卵形であり、消化管(食道)の癌肉腫と似通っている。FDG-PET/CTで陽性であった。転移形式は血行性であり、膈への転移も浸潤や管内転移ではなく血行性転移と思われた。転移部位の組織型はcarcinoma成分のみであり、この点も消化管の癌肉腫と同様であった。放射線療法、化学療法共に無効であった。

## ● 第47回日本癌治療学会総会学術集会に参加して

臨床腫瘍科 部長 山口 佳之

第47回日本癌治療学会総会学術集会は平成21年10月22-24日、パシフィコ横浜において岩手医科大学産婦人科学教室教授 杉山 徹会長のもとで開催された。進行再発卵巣がん化学療法として我が国の多施設共同研究として発信されたweekly PTX+CBDCAが世界標準となったことや、漿液性・粘液性・明細胞癌という組織(表現)型によって治療が異なるべきことなどがトピックスとして報告された。

過去最高の7000人を超える参加者を得た本会のメインテーマは「がん治療への目線」であった。患者の目線、医療従事者の目線、行政の目線、それぞれの目線から癌治療の現状とあり方が随所で議論された。日進月歩で次々と有効な分子標的治療薬が登場しているが、例外なく高額であり、医療経済において問題視される。医療費を削減したい行政の目線。医師はどうか。治療効果と副作用という目線に加え、医療費の議論も飛び交う。私は進行大腸癌手術後に再発予防として強い化学療法をするかしないかの議論に参加した。強い化学療法をしない意見が多数派(私はする派)であったが、自分が患者になったらどうかの質問に、強い化学療法をする派へと意見がかわる医師はどうか。高額な薬剤の適正使用を科学的に明らかにすべき医師の目線を否定しないが、「医療は患者のためにあり」、患者によりそうわれわれ医療者の目線は、やはり患者とともにあるべきではないのか。薬をもつが患者の目線は常にひとつ、「治したい、少しでも生きたい」であろう。

シンポジウム「がん対策基本法に基づくがん医療は変わったか?2年間を振り返る」において仙石大臣が駆けつけられ、「国

策としてのがん対策の必要とその方向性」として約40分間講演され、次の3点を強調された。1. 今までの医療費削減政策は間違い、医療に重きを置く、2. 提言を厚労省に提出のこと、3. 知事や地方議員に医療の教育を、というものであった。大変、心強く拝聴した。我が国の医療費の対GDP比はいわゆる先進国で最低なのである。

最後に、杉山会長のきめ細かなホスピタリティが大会中随所に感じられた。数年前より癌治療学会はご当地開催をやめ、横浜、名古屋、京都の固定地開催となったが、今回の横浜では、岩手・盛岡がそのまま移転してきたような錯覚さえ覚えた。さんざ盛り、牛肉、松茸、わんこそば等々である。かく言うわたしも、ちゃっかりわんこそば大会で優勝させていただいた(90秒33杯)。忘れられない学会にさせていただいたことに心より御礼申し上げ、学会訪問記とさせていただきます。



## ● エビデンス・レポート

消化器外科 部長 平井 敏弘

### 消化管間葉系腫瘍(GIST)の術後補助療法の有用性(ACOSOG:Z9001 試験)

Z9001は3cm以上の初発GISTに完全切除が行われた症例に対して、切除後1年間、400mg/日のグリベックを服用する群としない群を設定した第III相試験です。再発時にはグリベックを投与することが容認され、プライマリーエンドポイントが無再発生存率、セカンダリーエンドポイントが全生存率および安全性と設定されました。

まず、無再発生存率ではイマチニブ投与群が有意に良好な成績を示しており、その時点で臨床試験は終了となっています。サブ解析では、腫瘍径3-6cm、6-10cm、10cm以上のいずれの群でも有意にイマチニブ投与群が良好であり、特に腫瘍径10cm以上では顕著な差を示しました。

また、イマチニブ投与群において遺伝子解析が可能であっ

た症例のサブ解析では、症例数は少ないもののエクソン11変異群がエクソン9変異群に比べて良好な傾向を示しております。しかしながら、再発時にはグリベックを投与することが容認されていますので、全生存率はまったく差がなくほとんどの症例が生存中です。このプライマリーエンドポイントすなわち無再発生存率の結果を受けて試験は終了となり、プラセボ群にもイマチニブを投与することが容認されました。

今後、全生存率への影響に関する長期経過観察の結果はこの試験ではでないこととなります。しかし、この結果を受けて2008年12月、米国食品医薬品局(FDA)は術後補助療法への適応追加を承認しました。

www.the Lancet.com Published online March 19,2009

## がんセンター活動予定

- ◎ 第6回 Cancer Seminar  
 テーマ「がん分子標的治療の理論と実際－免疫療法を含む」  
 日時：平成22年1月16日(土) 13:30～16:00  
 場所：川崎医科大学校舎棟 7階 M-702教室
- ◎ 第3回 Oncology Seminar (看護師・コメディカル対象)  
 テーマ「がんの薬物療法」  
 日時：平成22年2月27日(土) 13:30～16:00  
 場所：川崎医科大学校舎棟 7階 M-702教室
- ◎ 第6回 市民公開講座  
 テーマ「がん治療「今昔物語」」  
 日時：平成22年3月13日(土) 13:30～15:30  
 場所：川崎医科大学 現代医学教育博物館 2階大講堂

## ● 緩和ケアフォーラム in 岡山のご案内

岡山南西地区およびその周辺地区における緩和ケアの強化・充実、在宅ケアの活性化に向けた情報交換、切れ目のない連携バスの完成と実践を目的にした研究会です。年4回の勉強会・講演会を開催、メーリングリストでの情報交換を行っております。研究会に参加ご希望の際は下記までご連絡をお願いいたします。

### 緩和ケアフォーラムin岡山

- 代表世話人** 川崎医科大学附属病院  
 消化器外科部長 平井 敏弘
- 事務局** 川崎医科大学 臨床腫瘍学教室  
 kasco@med.kawasaki-m.ac.jp  
 メーリングリストご加入の際は上記にメールをお願いします。

## ● オープンカンファレンスのご案内

下記のカンファレンスを行っています。参加ご希望の際は地域医療連携室までご連絡をお願いします。

### 呼吸器カンファレンス

呼吸器内科・呼吸器外科・放射線科(診断・核医学)合同で「呼吸器X線カンファレンス」を行っています。院外の先生方もどうぞご参加ください。気になる症例がありましたらレントゲンをお持ちいただいても結構です。

- 日時** 第2・4月曜日 18:00～19:00
- 場所** 9階中病棟 第2カンファレンス室

### Nutrition Support Team(NST) カンファレンス

毎週火曜日12:45から14階南カンファレンス室でNSTミーティングと勉強会を約1時間行っています。どなたでも参加可能です。



### 川崎医科大学附属病院

〒701-0192 岡山県倉敷市松島577  
 TEL 086-462-1111(代表)  
<http://www.kawasaki-m.ac.jp/hospital/>

#### 紹介患者さま受診予約窓口

- 地域医療連携室  
 TEL (086) 462-1111 (内線82306)  
 FAX (086) 464-1166  
 E-mail renkei@med.kawasaki-m.ac.jp